



“ メリケントキンソウ と ” サツマイモ

理事長 高杉 洋史

今回は玄海ゆりの樹幼稚園のお話です。吉塚ゆりの樹幼稚園では、全天候型屋根付きグラウンドがで、7月になっても日陰で遊ぶことが出来る、雨の日でも遊べると嬉しい声が届いています。幼稚園の教育は環境を通して教育を実現するよう幼稚園教育要領に定められています。

「環境」は社会一般で使われる言葉としての「環境」の意味にプラスして、友達や先生、家族や近所の方々などの人的環境や音楽や絵画、建築などの文化的環境も含み、早い話、総合的に子どもたちを取り巻く環境を整えることが必要なわけです。

玄海ゆりの樹幼稚園は屋根付グラウンドがない分、自然がいっぱいであることが特徴です。子どもたちが走りまわる運動場や、バッタやチョウを追いかける草の生えているスペースは生物の多様性に気づく大切な環境なわけです。ところが4・5年前からメリケントキンソウが侵入しました。南アメリカ原産の外来植物で、葉は杉苔のような優しい雰囲気草なのですが、小さな白い花の周りに、もっと小さな棘がたくさんついていきます。また結実すると種に鋭い棘があり、運動靴の底にささり、人が歩くことによりほかの場所に運ばれ繁殖するわけです。皮膚にささると危険なので4月下旬から地表を薄く削るように草刈りに励んでいました。子どもたちのバッタとりを妨害することになるのですが、とげが刺さるよりはよいだろうという判断です。6月上旬まで、刈っても刈っても新たに発芽していましたが、6月下旬になると発芽しなくなりました。きっと発芽に適した気温があるのでしょう。次の発芽時期は人にとってもさわやかな気候になる秋口です。それまでメリケントキンソウの戦いは一時休戦です。

その代わりサツマイモ畑や駐車場周辺の草刈りの季節です。主な草の種類はオヒシバとメヒシバ、スズメノヒエ、スズメノカタビラ、エノコログサ。これらの草が成長すると力を入れて引っ張ってもなかなか抜けません。芋の成長の邪魔もします。

サツマイモは6月2日と6月8日に苗を植えました。順調に育っています。子どもたちにとって野菜を収穫するというのは魅力的な活動のようです。洋ナシやイチジクは緑のピンポン玉の状態でもがれてしまします。それだけに秋のサツマイモほりの期待に添わないといけません。スーパーマーケットで売られるものは、手ごろな大きさにないと商品にならないのですが、子どもたちは大きなのを掘り上げることに満足を感じるようです。そこでゆりの樹ファームの山路さんがトラクターで畝を作るときに有機肥料を入れてくれるのです。もう一つ大きく育てるコツは苗と苗の程よい間隔なのです。サツマイモの苗はほとんど根がなく、こんなのを畑に挿すだけで大丈夫かなという姿です。したがって、雨が降ることを予想して植えるわけです。天気予報が外れると、水をかけて回る必要があります。環境を整え、特に幼いときは

手厚く面倒を見る必要があるのは子育てと共通するところがあります。吉塚、玄海ゆりの樹幼稚園の特徴をそれぞれに生かしながら、環境教育をこれからも頑張っています。

吉塚ゆりの樹幼稚園の園児の分までサツマイモ作り頑張りますので、楽しみにしていってくださいね。



「子育ては親育て、まずは大人が子育てのプロセスを楽しみましょう。」

プロセスを楽しめることができる人間に育てましょう」

園長 高杉 美稚子

子どもたちにとっては楽しい夏休みが始まります。保護者の皆さんにとってはある意味子ども達が学校や幼稚園から家庭に戻り、とても忙しく、慌ただしくなる大変な夏休みが始まるという印象かもしれません。そして、それは同時に、どんなに素晴らしい時間であるだろうかと思います。私の母が亡くなる前、母の病院に行くとき90歳を過ぎて100歳に手が届こうとする、認知症になってしまった母が私の体を案じてくれました。どうやって帰るのかと帰り道を心配してくれました。その意味では子育てに終わりはないのかもしれません。



ただ子どもが成人し、大学を出て就職や結婚をし、孫もできた時期が子育ての一段落だとすれば、私の子育てはもう終わったといえるのでしょうか。子育てという意味の子ども達と過ごす時間が、なくなってきて本当に思うのは、あの大変な夏休みがなんと輝いていた時間だったろうかということです。子育ては長いようで短いのです。

ずっと職業を持っていた私でも、下の子どもが小学校に上がった時に膝の上を風が通り抜けるのを感じました。もう抱っこされない子ども、膝の上にいつもいた子どもがいなくなる、本当にいなくなったわけではなく、小学校に行っている時間が長く、そして、もう親よりもお友達と遊ぶ時間が長くなっただけのことなのですが、私の膝が寂しがっていた、本当に膝の上を風が吹いていると感じたことを昨日のことのように思い出します。

親子で、どこかへ出かけられるのも小学校までです。中学校に入って、バトン部に入部した娘と、剣道部に入部した息子は夏休み、盆休みにしか家にはいませんでした。旅行に行きたくても、親子でスケジュールの調整がつかないのです。あまりの部活の忙しさに、もう少し子どもを家庭に返してほしいとさえ思ったほどでした。

結局、子どもが小さい頃は親の仕事が忙しく、(夏休みといえども責任上私と理事長が同時に園を空けられないという事情があったのですが) 中学からは子ども達が忙しくなって、また母と叔父の介護もあり、結局家族4人で出かけたことは一度もなく終わってしまったことが、子育てでは心残りでした。



正確には、行けなかったことではなく、いかにその状況の中でも、もっと楽しんでおけばよかったという思いです。ですので、どうかこの夏を満喫できること、どこかに出かけなくても、家族前っていること、このコロナ過だからこそ、当たり前なのが当たり前前にできることを幸せに感じてほしいのです。

「幸せとは、そう感じる自分がいること、その為には人生は楽しむ為にあるのではないかとこの事に気付くこと。」

楽しい事を探している人はいっぱいいるけれど、今日の前にあることを楽しめる資質をもっている人は稀です。そしてその資質を持つことこそが、私たちの人生の目標だと思うのです。不愉快と思うことすら楽しめる自分であること、今いる場所が自分にとって幸せな場所と感ずることが出来る自分になれば、どこにいても、いつでも、幸せを感じる事が出来るでしょう。 **幸せの青い鳥は常に自分の側にいるのです。**

今この場所で、幸せを感じる事が出来なければ、どこにいても、幸せを感じることは難しいのではないのでしょうか。幸せを感じることはその人の能力だと思います。そしてその力は磨く事が出来ます。その為にも、過大評価でも過小評価でもない等身大になりたいけれど、**そうではないダメな自分が見える時さえもこれを乗り越えたらどんな自分になれるだろうとそのことを楽しめる自分でありたいと思います。**

幸せは幸せだと感じる人が幸せで、幸せを幸せだと感じられない人が不幸なだけなのです「あいふれた日常の中からその小さな夢、幸せ、喜びを見つける力」を一人一人がどれだけ持っているかがこの世界を良くしていくのだと思います。小さな幸せを見つける力が生きるエネルギーを生み出していくのだと思います。



どうかしばらくの間、子育ては大変と感じるでしょうけれど、どうせする子育てなら楽しんで下さい。楽しめる時間はことのほか短いですよ。**子どもは5歳までの笑顔で一生分の親孝行をしてくれるのだそうですから。そしてその姿を通して親を育ててくれているのですから……**

その為に大切なことは「本当の自分を隠し、フリをしない。」ことです。

人が生きていく上で、「**本当の自分を隠し、フリをしない**」**為には感情に気づくことが一番大切なこと**」です。

では、自分の感情に気づけないとどうなるのでしょうか。

自分の感情に気づけない。その結果として人の気持ちかわからない。

そして

- ① 自分や周りに対する思いやり、優しさは育たない。場が読めない。
- ② 五感がなくなる。感動できない。プロセスを楽しめない。
- ③ 自己選択、自己決定ができなく、指示待ち症候群になる。

さらに

- ④ 人と心が通い合わない。人付き合いが苦手になる。
- ⑤ 人生のプロセスを楽しめないから、勝つか負けるか結果が全てになる。
- ⑥ 結果だけを気にするので、結果が悪いと苦しみ落ち込む。失敗が怖くなり、チャレンジできない。
- ⑦ 指示待ち症候群になるから人の許可がないと動けない、そして、自分の目標がなくなる。目標が決まらないから本当の自分の力、人間力は発揮できない。自信がなくなる。
- ⑧ 素直に本当の自分を出せないから心が通じることがなく、孤独になる。
- ⑨ 孤独していると寂しいので、相手に認めてもらいたくて認めて、わかってとせめる。責められると人は離れる、更に孤独になる。「**ハルネスミのジレンマ**」です。孤独していると寂しいので、人に合わせていい人のフリをする。本当はいい人ではない、こんな情けない自分ということは自分が一番分かっているのだから、自己否定になる。益々本当の自分からは遠ざかる。自分から遠ざかるから、更に自分の感情に気づけなくなる。この繰り返し。

あげくに

- ⑩ 本当の自分を否定し続けることによって疲れ果て、本当は自分が選んだ行動なのに、自分がこうなったのは人のせい、親のせいと思い込んで相手に憎しみやジェラシーを持つ。



こんな大人が出来上がっていく心配があります。ではもう既にこんな大人に育ってしまった大人はどうしたらいいのでしょうか。全部でなくてもどこかの部分が自分に当てはまると感じた方はいらっしゃったかもしれません。自分に自信が持てないで大人になったらどうしたらいいのでしょうか。この巻頭言を熱心に読んでくださっているお母さん、そして、少し悩んでいるお母さんは、もう既にいろいろなことを感じてくださっている証拠だと思います。

だから、この文章を読んで不安になったお母さんほど何の心配もいりません。そして、もし自分はこんな親でいいのだろうか悩んでいたとしても、そのことを感じて下さっているわけですから、感情もあるし、悩んでいるということ自体が気づいていることなのですから、なにより素晴らしいことなのです。気付けば変わるからです。

自分の足りないところ、情けないところに気付かない人は、他人が悪いといつも人の責任にして、自分は責任を取らないから、気付くもしないし、いつまでたっても変われもしないのです。そして益々、人の責任にして、愚痴ばかり、不満ばかり言い続けるという悪循環です。

だから気付けたことが大切なのです、大丈夫です、今からでも遅くはありません。何を隠そう、この10の姿は私の大人びた子どもの頃の自信のない、情けない私の姿だからです。

「このように苦しむ子ども、大人に育ててはいけないう、どうしたらリラックスして、どんなことも楽しんで、生きていくことが出来る大人に育てられるか」が、私が27歳で園長になった時、教育理念を作る時の、動機づけになりました。

そして教育学や心理学の学びの中で私の生き直しと自己成長と共に、「ゆりの樹幼稚園の10Eとめざす人間像」が出来上がりました。

ゆりの樹幼稚園がめざす人間像



- | 自分軸 | ⇔他人軸 |
|--|------------|
| 1. 心と体が健やかな人—明るく、元気
人の良いところに焦点をあてることができる | |
| 2. 謙虚な人—清く、優しい
人の成長を自分の喜びとし、手柄を自慢しない、相手をたて、「ごめんなさい」が言える | ⇔適度 |
| 3. 正直な人—自己肯定、素直
「わからないことはわからない、教えて、助けて」と言え、聞くことができる | ⇔従順 |
| 4. 感謝できる人—他者肯定、愛らしい
起こることすべてを受け止めて、必要だった、だからよかったと感じ、「ありがとう」が言える | ⇔へつらい・ごますり |
| 5. 柔軟性がある人—かしこく、温かい
外(クレーム・アクシデント) 内(自分の問題・ストレス)の
どんな変事にも対応しようとする | |
| 6. 勇気がある人—どっしりとして力強い
自分を信じて新しいことにチャレンジ、最後まで
あきらめないで一步を踏み出すことができる | |
| 7. 自己責任がとれる人—凜として、おだやか
自己承認し、言い訳をせず、人のせいにしない
「だって・でも・どうせ」を言わないで、
今、何ができるかを考えようとする | ⇔賞賛 |

子ども達の成長のプロセスを見ることが出来るのは親と教師だけ。その幸せを感じることが出来る人、我が子、園児の幸せ、ひいては人の幸せが自分の幸せと感じられる人は、最も幸せな人になる。そして人に認められ、相手も自分もモチベーションを上げられるそんな陽だまりのような人になれる。

これは一見難しいと感じられるでしょう。その通りです。「目指す人間像」の人のいいところに焦点を当てる、謙虚、正直、感謝、柔軟性があるって勇気を持って自己責任がとれることが全てできる人なんていません。

そして、「私、正直でなかった」と気づければ、「私は正直ですと言い張る人」より、正直な人です。気づいた時に不思議なことに手に入れているのです。穏やかになれます。だから、そんな自分であることに気づくことが大切です。この「7つの目指す人間像」の前には実はもう3つ、目指す姿があります。

「一つ目は愛—そこに愛をもっているか」

同じ言葉を言ってもそこに愛を持って伝えているか、憎しみを伝えているのかでは行動は全く違います。

「二つ目は気づき—自分のおきよう・姿・言動・行動に気づいているか」

傲慢な人は自分の傲慢に気付いていません。怒っているときはなんで自分が怒っているかに気づきません。

「三つ目は自他受容—その自分も、相手も受け止めているか」です。

どんな嫌な自分も受け入れていたら、そのことで失敗したらすぐ気付けます。「失敗の川」は冷たいからです。

そしてその駄目な自分がいたから今の自分がある、私に例えるなら、「怖がりの小心者だから」を、いいところに焦点を当てて言い換えると「慎重、堅実」、だから、園児の安心安全の園舎ができ、教育理念が来上がったと思えば、小心者に「ありがとう」です。その自分も受容出来た時、相手の言葉も素直に受け入れられるから、他者受容もできるのですね。

そして、それが私らしさだと受け入れた時、横に流れていた冷たい「失敗の川」はどっしりとした縦になった温かい「大樹」になるのです。それがゆりの樹幼稚園の「大樹のようにすくすく伸びる子どもたち」の意味です。

そしてこれは目指す人間像の根底にあるものであり、上位にあるものですから、目指す人間像の文言からは省きました。そして、いつもそのことを意識し、大切にしています。

この人間像が私には足りなかった、こんな私になりたいと言えた時、心理学の仲間が「それをすべて持っている人に見えるよ」と言ってくれたことを昨日のように覚えています。



これまでの、巻頭言を読んで嫌な自分に気づいたり、不安になったりしたお母さんは新しい自分になる為に、変化する為に、そしてどんな自分もその自分を受け入れていく為にとてもいい兆候です。ただ心配なのは、真面目なお母さんほど、自分と向き合っただけで悩んでしまうことです。

どうか心配しないでください。悩まないでください。結論を最初に言っておきます。悩んでいるから大丈夫なのです。悩みが一番人を成長させてくれるものだからです。

自分の足りないところ、(実はいいところなのですか)そのことに気付くことが一番大切です。

以前にも掲載した同じ文章ですが、**「子育ては気づいた時からが出発。遅いということは幾つになってもない。」**

子育てがたとえ終わって自分が死ぬ前の日にでも、気づき、修正し、自分の人生に満足できればそれに越したことはないのです。

過去を顧みることはとても重要なことです。

しかし過ぎ去った過去は取り戻せません。

むしろ、新たなスタートラインに立つことが大切です。

しかも、**誰も完璧な親に育てられたわけではおきません。**

その上、自分の親も、祖父母に影響を受けた上で、子育てであったのかもしれないということは容易に想像がつくことです。そのことに気づけた時、親の養育態度に対しても、許すことが出来るのですが……。



自己実現は一生です。今日も明日も、いくつになっても成長することは出来ます。一生、人間は生涯教育です。変えることの出来ない過去をどうするかではなく、今をどう生きるかであろうと思います。「今ここに生きること」を精一杯実現すればそれがやがて、いえその瞬間に過去に未来になります。

だから、私達に子育てという仕事が任されているのだと思います。

親が完璧になっているのを待っていたら、一生子育てなんか出来ません。

人は親になることで、もう一度、自分が通り過ぎなかった発達レベルを

繰り返し体験することが出来るのです。人は親になることで人間に

もう一度なるのです。いえ、本当の人間になるのです、と言ったら言い過ぎでしょうか？

「子育ては自分育てである」ことの所以は、ここにあります。



子育ては自分が成長するまたとないチャンスです。子どもを産み、子どもを愛し、自己肯定感を持つようにサポートするプロセスはまさに、再度、親自身が自分を愛し、自分に自己肯定感を持つためのプロセスです。

愛されずに育った人も、自分が子どもを愛し、子どもに愛されることによって自分を愛することが出来るのです。子ども達は、私達、親を育てるために、私達のところに生まれてきたのですよ。お母さん。



だから、すべて大丈夫です。自分に自信がもてないお母さん、自分を認められないお母さん、いつも不安なお母さん、そして自分が好きになれないお母さん。だから、心配しないで。自分の人生の生きなおしをしましょう、もう一度。子育てを通して。だからこそ、人生に遅いことは何もないのです。子育てにも手遅れということはないのです。

気づいた、今から歩き出しましょう。気づけないより、何より気づいたことが、一番の宝なのですから。

勇気を持って……一緒に育ちましょう。子ども達と共に。このゆりの樹幼稚園で。

いつもそばにいて見守っています。どうか子育てに疲れた時、このことを覚えていてください。

では、私はどうしてこんな少し大人びた怖がりの臆病な子どもに育てていったのでしょうか。

両親は最大の愛を私にそそいでくれていたのにです……そのお話は次回です。

★美稚子先生の人付き合いワンポイント★

相手が満足するだけのお金も、家も、衣類も、権力も、人に与えることはできない、
水飲み場まで連れて行っても本人が飲む気になければ与えることもできない。
与えることが出来るのは「あなたがいてくれてありがとう」の感謝、ありがとうの心だけ。
感謝を伝えて生き続けたら、最後に何も持っていくことはできないけれど、
感謝の言葉が戻ってくる

すべてだいじょうぶ!!



●感謝3段階●

- 初級: 滅多にないくらい稀で嬉しいこと、ありがたいことに「ありがとう」と感謝すること
- 中級: ごく当たり前のことに、自然に心から「ありがとう」と感謝すること
- 上級(達人クラス): 一般的に言う都合の悪いこと、大変なことにも「ありがとう」と感謝すること

●ありがとう5段活用●

- 1)「すみません」こんなことまでして頂いて申し訳ない。
- 2)「ありがとう」と言葉(口)は発しても、態度と気持ちはそれほどでもない。
- 3)「ありがとう」と言葉(口)と態度(身)では示しても 気持ちはそれほどでもない。
- 4)「ありがとう」と心から感じ、言葉と態度で示す。
- 5)「ありがとう」と心から感じ、言葉と態度で示す。そしてその気持ちを相手の方、もしくは
ご縁のある方 に何らかの形で お返りする(お返ししようと思い、行動する)……

これができたら素晴らしいですね。

